

## 2025年度 地域連携活動助成金 活動成果報告書

### 1 活動概要

活動団体名	農学部農学科・野菜園芸学研究室
活動テーマ	明治大学（農学部農学科・野菜園芸学研究室）が開発した世界初の画期的な栽培法であるアスパラガスの「採りっきり栽培」（1年養成株全収穫栽培法）を国内各地に普及する
活動期間	2025年9月10日 ～ 2026年9月12日 2025年12月2日 2026年2月23日 ～ 2026年2月24日
主な活動場所	明治大学生田キャンパス、岩手県金ケ崎町、群馬県沼田市、茨城県鹿嶋市および神栖市
連携地域	岩手県金ケ崎町、群馬県沼田市、茨城県鹿嶋市および神栖市
連携団体等	JA 岩手ふるさと、JA 利根沼田、茨城県農業総合センター鹿島地帯特産指導所
活動者数	計13名 ※活動に参加した本大学の教職員及び学生の人数を入力してください。

## 2 活動概要 ※活動内容や活動成果は地域連携センターHP等で公表します。

活動目的（地域が抱える課題との関係や活動により期待される効果等、本活動が地域の課題解決や活性化につながる事が分かるように記入してください。）

**スタート型**：新しい地域連携活動を着想した背景、また必要性について記載してください。

**ステップアップ型**：「過年度の活動内容」を記載の上、今回の申請の「発展性」あるいは「応用内容」などを記載してください。※過年度の活動が無ければ記入不要です。

申請団体（農学部農学科・野菜園芸学研究室）は、野菜で人気があるアスパラガスにおいて、より手軽で病虫害のリスクが少なく、1年だけ株を育てて採りきる新栽培法「採りっきり栽培」を開発した。本栽培法は、初心者でも簡単に取り組み、地方自治体やJA、企業などと一体となって全国に普及しつつある明治大学発で世界初の画期的な栽培法である。従来法では、本格的な収穫までに数年かかり、一度植え付けると何年にもわたって栽培管理しながら収穫し、病虫害のリスクも年々高まる事が課題となっている。本栽培法は、2016年に公表したあと、TVや新聞、雑誌などで何度も紹介され、注目が高まっており、日本各地で導入の動きがある。2023年度には、明治大学生田キャンパスにおいて本栽培法のフィールドデーを2回開催し、いずれも100名を超える参加者が集った。また、本栽培法は、世界からも注目されており、2022年6月にスペイン王国で開催された国際アスパラガスシンポジウムでは、申請代表者が本栽培法に関する基調講演を務め、学術誌に総説論文として掲載された。連携地域は、2024年度または新型コロナ禍以前において、申請団体と受託研究契約を締結した地域、独自に情報交換を行っていた地域のほか、2023年度開催の2回のフィールドデーにおいて、現地実証試験を希望した地域である。それぞれの連携地域の生産者は、アスパラガスの栽培意欲が特に高いことから、本活動は本栽培法をそれぞれの連携地域に広く普及することを目的に行った。本活動は、連携地域と申請団体との交流を通じて、連携地域の活性化につながることを考える。

活動計画（活動目的を達成するための具体的な計画や方法、申請団体と連携地域・団体等がそれぞれ担う役割、過年度の活動実績や次年度以降の継続性等について詳しくしてください。）

アスパラガスは、収穫と株の維持に加え、株養成とのバランスをとることが難しく、生産者によって収量差が大きい。栽培管理の優劣が問われる野菜である。申請団体が開発したアスパラガスの新栽培法「採りっきり栽培」は、初心者でも簡単に組み立てるものの、栽培を覚えるまでの最初の数年間は栽培指導が必要であり、栽培指導を行わない場合は失敗する事例も多い。

本活動は、先行産地（埼玉県三郷市や東京都多摩市など）の成功事例を参考に、岩手県金ケ崎町、群馬県沼田市、茨城県鹿嶋市および神栖市の新たな連携地域で、生産者や技術者（普及員・指導員）、地方自治体やJAなどの担当者と情報交換することにより、本栽培法の導入とアスパラガスの産地化の可能性を探った。それぞれの連携地域の地方自治体やJAの担当者などには、生産者のとりまとめをお願いし、申請団体とそれぞれの連携地域の生産者とを結ぶ窓口となっただき、意見交換会の開催や栽培圃場巡回指導などは、申請団体と連携地域（連携団体）が一体となって実施した。岩手県金ケ崎町では、アスパラガスの茎枯病が問題となっていることから、本助成金を使用して栽培圃場に訪問し、本栽培法と通常の栽培法で茎枯病の発生状況を比較した。群馬県沼田市では、ネコブセンチュウによりトマトの連作が困難となっていることから、本助成金を使用して栽培圃場に訪問し、本栽培法を輪作作物として導入した場合とトマトを連作した場合でトマト栽培におけるネコブセンチュウの発生状況およびトマトの生育状況を比較した。さらに、茨城県鹿嶋市および神栖市では、ネコブセンチ

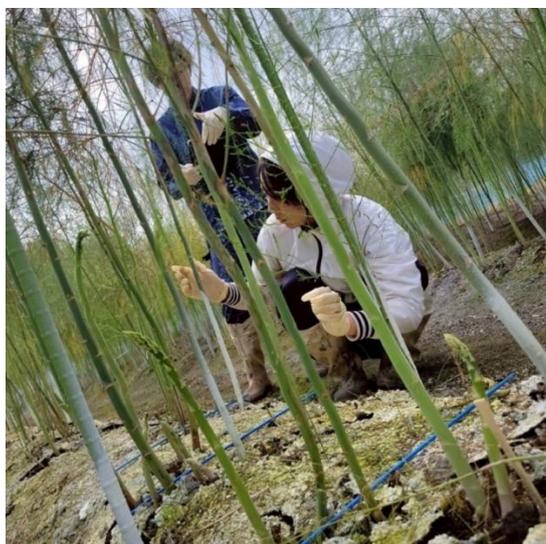
ユウによりピーマンの連作が困難となっていることから、本栽培法を輪作作物として導入しており、アスパラガスがピーマン栽培においてネコブセンチュウの発生を抑制することが明らかになっている。そこで本助成金を使用して連携団体および栽培圃場を訪問し、本栽培の普及の可能性および得られた成果について意見交換を行った。今後も申請団体や連携地域の研究機関の栽培圃場で対策試験を連携して実施するとともに、それらの研究成果はそれぞれの連携地域において現地実証試験に移し、本栽培法の普及に務める。

#### 活動スケジュール（実施した広報活動についてもご記入ください。）

9月10日：岩手県金ケ崎町の生産者、JA 岩手ふるさとの職員およびサナテックシード（株）の社員と「採りつきり栽培」に関する意見交換を行った。

9月11日：岩手県金ケ崎町の生産者圃場において、露地普通栽培のアスパラガスの病害発生に関する調査を行った（写真①）。

9月12日：岩手県金ケ崎町の生産者圃場において、「採りつきり栽培」の圃場を見学した（写真②）。



写真①



写真②

12月2日：群馬県沼田市の生産者圃場において、「採りつきり栽培」の後作物であるトマトの調査を行い、「採りつきり栽培」に関する意見交換を行った（写真③）。



写真③

2月23日：茨城県農業総合センター鹿島地帯特産指導所内の圃場を見学した。

2月24日：茨城県農業総合センター鹿島地帯特産指導所内において、「採りっきり栽培」によるネコブセンチュウ防除に関する意見交換を行った（写真④）。さらに神栖市のピーマン生産者圃場を視察した（写真⑤）。



写真④



写真⑤

連携先からの一言/参加学生からの一言/参加者からの一言（連携先又は参加学生からの一言の場合、所属と氏名をご記入ください。）

所属：明治大学農学研究科農学専攻 修士1年 氏名：加川歩実

私は、岩手県金ケ崎町および群馬県沼田市の生産者様圃場を訪問した。いずれの生産者様についても、病害の発生を抑制できる「採りっきり栽培」に対する意欲が高いと感じた。地域ごとに土壌や気候が異なるため、各地域に適した栽培方法を提案することにより、多くの生産者様にとって栽培しやすい栽培方法として、「採りっきり栽培」の普及拡大につなげたい。